

よこ館だより



Est. 1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 うめ草 ②9

～長寿企業の知恵～

Web 上の「ものがたりチャンネル」という情報プログラムがあります。そこで「Story 長寿企業の知恵」という番組をチエノワという会社が制作しています。日本には 100 年企業が 3 万社、200 年が 3,000 社、1,000 年を超える企業が 11 社あるそうです。これは世界の長寿企業の 70% だそうです。世界最古の企業は 578 年、聖徳太子が四天王寺を建設するために招いた百済の棟梁が起こした金剛組で世界最古の企業です。番組でいわく「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」だそうです。なぜ日本に多くの長寿企業が残っているのでしょうか。不思議な思いがしますし、そこに歴史から学ぶ知恵があるのでしょうか。

さて、この番組で 100 年企業として至誠学舎立川に白羽の矢が当たりました。3 万社のうち社会福祉法人がいくつで、なぜ至誠学舎立川なのか分かりませんが、8 代目の理事長としてそのドキュメンタリー・トーク番組に出演をしました。インタビューは法人の歴史・事業だけではなく、現在のリーダーとしての私の背景まで語らせられました。

収録当日は暑いさなかの 8 月、原宿のおしゃれなビルのスタジオでベテランアナウサーからの降り注ぐ鋭い質問に、「あたふた」と答えさせられたのがこの番組です。10 月 1 日に放送がアップされました。これまでの出演は、クズ餅の船橋屋、アース製薬、宇津救命丸などの 100 年企業の社長がそれぞれの会社の歴史やリーダーとしての心意気、見識などを語っていたのでそれらの企業や社長と比較されるだろうと緊張でした。

私は、常に「歴史はお金で買えない」と言ってきたし、歴史の積み重ねの上に今があるという思いを持っています。改めて気がついたのは長寿を支える「理念と志」、そして変化する時代に柔軟に対応できる「感性と判断」、そして仕事は「同志」によって支えられるということです。改めて至誠学舎立川の歴史と実践、そして担っている「人と組織」を再認識しました。「長寿企業の知恵」と検索するとアーカイブスで至誠学舎立川の番組が閲覧できます。ぜひご覧頂き、感想などお届けいただくと苦労した甲斐があります。

理事長：橋本正明

事業本部長メッセージ

10 月 21 日の夕方、至誠学園に本部を置くボーイスカウト立川第四団が発団 50 周年記念式典を行いました。昭和 42 年、当時法人の理事であった東洋大学教授塚本哲先生が育成会長、高橋利成園長が団委員長、学園の子どもたちを中心にスカウト約 20 数名でスタートし



ました。資金面では立川 6 小の清水行正先生のご尽力で市内の多くの方々にご育成会員としてご協力をいただきました。塚本先生のお力で東洋大学の学生さんたちが指導者としてこの活動の礎をつくってくださり最盛期はスカウトと指導者を合わせて 160 名を超え、多摩地区のスカウト運動の中心的な役割も果たしてきました。式典はキャンプファイヤーの火(あいにく雨天でロウソクの火)を囲み厳粛にそして和やかな会となりました。地区役員や OB の方も大勢参加して下さり皆様のお話の中にこの運動をとおして子どもたちの成長と豊かな人生の交流、そして半世紀の時の流れを超えた人のつながりの重みを感じるひとときでした。

今年も 11 月 9 日にりするホールで「0 からの親子コンサート」を開催します。孤立した子育てが課題となっている現代ですが、結団 50 周年の記念式典は、私たちの活動が地域の人々、関係機関・団体と手を携え地域福祉を高める運動につながっていることを実感する集いでした。

児童事業本部長 高橋 久雄

事業本部情報

♥児童事業本部♥

雨続きの10月、各施設で行われる年中行事も創意工夫のもと無事に終わることが出来ました。ライオンズ一日里親の行事、運動会は子ども達の日常的に取り組んできた練習成果や成長する姿を見ることが出来子ども達の元気いっばいの楽しい行事となりました。そして多くの地域の皆様にも応援にご来園をいただき心より感謝申し上げます。有り難うございました。同日行いました至誠合同バザーではGAP ジャパン株式会社の全国のGAP店からのお品物の提供をいただき、前日、当日のボランティア約40名の方々がお手伝いいただきました。皆様のご協力ご支援に対し御礼申し上げます。

さて、子ども達の次なる目標は、恒例になりましたテレビ朝日福祉文化事業団主催の子どもキラット発表会に創作舞踊と全員合唱で出演します。年間を通して月二回の金曜日には舞踊のレッスンをを行い、日頃の成果を発表します。子ども達の晴れ姿に応援にお出かけください。皆さんご存知ですか？まことホームアウリンコプラスに「まことカフェクッカ」がオープンしております。おいしいコーヒーを淹れてお待ちしております。どうぞミーティングやひと休みにご利用ください。(櫻井 壽)

♥保育事業本部♥

昨年、流行語大賞になった『保育園に落ちた日本死ね』は日本どうなっているのを『死ね』に置き換えた過激な言葉だと思いますが気持ちは伝わってきます。

厚生労働省は平成13年に「待機児対策加速プラン」をつくり保育の受け皿を整備してきましたが、政府の予想以上に共働きが広がり保育需要が大きく伸び、全国で2万3千人の待機児がいます。待機児ワーストワンの世田谷区では平成30年度に20園、日野市では平成30～31年までに新設園7園、が開設される予定です。待機児ゼロの目標を3年遅らせてもなお解消は見通せないようです。

さて9月頃より各保育園では、来年度入園希望者の施設見学会がスタートしました。

小さな赤ちゃんを抱いた地域の方が希望を胸に訪れます。しかし、多くの方に丁寧に説明していますが、見学した保育園、希望園に入園できる方はほとんどいない状態です。保育園に入園できない、第一希望の保育園に入園できない。子育てよりも保育園の事で一喜一憂する毎日。母親に優しい日本、そして仕組み作りが必要なのではないのでしょうか。

(長谷川育代)

♥高齢事業本部至誠ホーム♥

10月14日(土)至誠合同バザーが行われました。昨年と同じく雨模様の中でしたが、なんとか激しい振りにはならず午前10時・橋本理事長が太鼓を叩く音を合図にバザーが始まりました。

三事業本部合同での開催は5回目です。今年は至誠学園・石田芳朗園長が実行委員長でした。会場を至誠ホームで行うのも馴染んできていました。雨降りのなかですが、バザー・出し物そして焼き鳥等の模擬店も好評でとても盛り上がりました。

午後4時からの本部まこと館での「合同慰労会」も大変盛り上がりました。皆で懇親しながら、名前と顔が一致して事業本部内の縦横のコミュニケーションのほか、斜めの懇親が図られていくことでもっと円滑にバザーが運営できるかなと思いました。(金井裕一)

本部事務局だより

日々の仕事や行事に追われて、気がつけば北国からは雪の便りが届く頃となりました。台風がもたらしたのか、黒潮蛇行のせいかな、今年は寒さが厳しいような気がしてなりません。四季のある日本に暮す私たちは、季節の移り変わりへの心構えが身につけているような気がしますが、その時になるとあたふたしてしまい勝ちです。

ところで、変化すると言うことでは、日頃から業務に欠かせないミロク会計システムが、更新時期を迎え12月から新しくなります。今回の更新により便利な機能も追加されますが、使いこなさなければ宝の持ち腐れとなってしまいます。そのために11月22日に新システム研修会が開催いたします。しっかりと勉強しましょう。なお、12月1日から5日までは、パソコンの入れ替え、新システム導入、データの移行作業のため、ミロク会計システムは使用できませんので、ご準備をお願いいたします。(野島忠幸)

<編集後>今年の秋の長雨は、例年になくすごいことになっているようです。各地で水が氾濫するニュースを見ると、東京は安全?のように思いますが、多摩川が隣接していますし、何事も備えよ常に!でしょうか。